

看護研究 第46巻 総目次

2013年(第1号～第7号)

(表示は、題名、著者名、(号)掲載ページ)

〔特集〕

第1号◆被ばく医療における看護の人材育成と研究

弘前大学大学院被ばく医療人材育成プロジェクト
(企画：西沢義子)

被ばく医療人材育成プロジェクトの概要、對馬均、(1)6-12.

緊急被ばく医療に関連した看護研究の動向、富澤登志子、漆坂真弓、北島麻衣子、(1)13-22.

プロジェクトにおける体制づくりと研修の展開、諸機関との連携、木立るり子、齋藤久美子、古川照美、(1)23-31.

プロジェクトにおける被ばく医療教育①—学部、大学院、現職者における被ばく医療教育の概要—大学院を中心に、一戸とも子、木立るり子、(1)32-38.

プロジェクトにおける被ばく医療教育②—現職者を中心とする被ばく医療教育、井瀧千恵子、北嶋結、(1)39-46.

原子力災害における看護活動と福島第一原子力発電所事故への対応、野戸結花、北宮千秋、(1)47-54.

海外における被ばく医療教育—研修から得た学び①—米国 REAC/TS における研修を通して、高間木静香、横田ひろみ、(1)55-58.

海外における被ばく医療教育—研修から得た学び②—チェルノブイリ原発事故後26年のいまを学ぶ、北宮千秋、(1)59-66.

海外における被ばく医療教育—研修から得た学び③—フランスにおける被ばく医療体制と教育、野戸結花、(1)67-70.

海外における被ばく医療教育—研修から得た学び④—米国 UCSF 研修を通して、米国のがん放射線治療と看護を考える、曾津桂子、北島麻衣子、安杖優子、(1)71-76.

被ばく医療における人材育成のこれから、西沢義子、(1)77-82.

第2号◆看護学における事例研究法

新たな研究デザインへの可能性

(企画：黒江ゆり子、木下幸代)

事例研究法における認識論的課題、内田雅子、(2)117-125.

時間的経緯を踏まえた看護学における事例研究法の意義に関する論考、黒江ゆり子、(2)126-134.

【看護実践における事例研究】事例報告から事例研究へつなぐプロセス①—研究課題の明確化、伊波早苗、(2)135-145.

【看護実践における事例研究】事例報告から事例研究へつなぐプロセス②—事例研究におけるデータ収集と分析、東めぐみ、(2)146-153.

【看護実践における事例研究】事例研究の実際①—看護実践者が行なう事例研究の一試案—糖尿病看護における待つ看護の検討、東めぐみ、(2)154-162.

【看護実践における事例研究】事例研究の実際②—2病院に通院する複合疾患患者の心不全のコントロールと生活調整、仲村直子、(2)163-168.

【看護実践における事例研究】事例研究の実際③—C型肝炎患者の不確実性の受けとめの変化プロセスと支援の検討、長谷佳子、(2)169-177.

【看護実践における事例研究】倫理的課題を乗り越えた先にあるもの、小長谷百絵、(2)178-183.

【看護実践における事例研究】実践知につなぐ事例研究—一事例の事例研究から複数事例研究へ、木下幸代、(2)184-189.

看護研究、事例研究法における倫理—弁護士の視点から、増田聖子、(2)190-197.

これからの事例研究法の意義と可能性—事例研究会の取り組みを通じて、野並葉子、(2)198-203.

第3号◆認知症の当事者研究のために

老年看護学の視座を拓く

(企画：中島紀恵子、永田久美子)

なぜ、認知症の当事者研究なのか—認知症ケアの歩みと未来、中島紀恵子、(3)242-253.

認知症の当事者研究とは何か—超高齢社会の生き方・看護・研究の共創に向けて、永田久美子、(3)254-262.

医師の立場からみた認知症の当事者研究. 木之下徹, 水谷佳子, 安田朝子, 本多智子. (3) 263-273.

ドキュメント認知症当事者研究の誕生 — 芋虫が蝶に変わるように. 川村雄次. (3) 274-285.

認知症の本人と共に生きるケアの実践 — センター方式の取り組みを中心に. 櫻井記子. (3) 286-293.

当事者と共につくる個別ケアと地域包括ケアのダイナミックな連動 — 行政事務職の立場から考える. 稲垣康次. (3) 294-302.

【座談会】認知症の当事者研究から見えてくるもの. 中島紀恵子, 永田久美子, 木之下徹, 稲垣康次, 川村雄次, 櫻井記子. (3) 304-319.

【講演】認知症と生きる. クリスティーン・ブライデン／翻訳: 馬籠久美子. (3) 321-326.

第4号(増刊号)◆質的研究方法を用いた 博士論文作成指導の技法 メンタリングプロセスに焦点を当てて (企画: 萱間真美)

本研究のこれまでと概要. 萱間真美. (4) 363-365.

質的研究を行なう博士課程の学生指導 — Mentoring Doctoral Students in Qualitative Research. Christine A. Tanner / 監訳: 萱間真美. (4) 366-373.

博士論文作成指導におけるメンタリングプロセス — 『Journal of Nursing Education』への投稿を通じて. 萱間真美, グレグ美鈴, 麻原きよみ, 山本則子, 大熊恵子, 太田喜久子, 木下康仁. (4) 374-381.

博士論文の指導と審査, および分析基礎力の指導例. 木下康仁. (4) 382-389.

質的研究の経験から — 論文指導, 学習のヒント. 山本則子. (4) 390-397.

【ディスカッション】質的研究方法を用いた博士論文作成指導において何が重要か. 中山洋子, Christine A. Tanner, 山本則子, 木下康仁, 萱間真美, 大熊恵子, グレグ美鈴, 麻原きよみ. (4) 398-406.

ディスカッションへのコメント. 麻原きよみ. (4) 407-409.

博士論文作成指導に関する今後のあり方 — 私はこう考える①. グレグ美鈴. (4) 410-412.

博士論文作成指導に関する今後のあり方 — 私はこう考える②. 中山洋子. (4) 413-415.

第5号◆看護研究における テキストマイニング(I) (企画: 服部兼敏)

看護の言葉をマイニングする — テキストマイニング研究概論. 服部兼敏. (5) 462-474.

テキストマイニングの看護研究における活用. いうたけひこ. (5) 475-484.

統合失調症当事者の語りのテキストマイニング — 闘病記のタイトル分析を中心に. 小平朋江, いうたけひこ. (5) 485-492.

「乳がん研究の動向」と「患者の語り」のテキストマイニング活用例. 城丸瑞恵, 水谷郷美, いうたけひこ, 門林道子, 佐藤幹代, 小平朋江, 本間真理. (5) 494-502.

第6号◆看護研究における テキストマイニング(II) (企画: 服部兼敏)

ソーシャルメディア上のビッグデータを分析して — 乳児をもつ母親の関心事. 井田歩美, 猪下光. (6) 543-551.

テキストマイニングによる成功率の高い禁煙プログラムの会話構造の特徴. 大野佳子, 磯村毅. (6) 552-567.

チーム医療をテキストマイニングする — 地域での栄養サポートチームにおける歯科専門職の役割に注目して. 柴崎美紀, 小原由紀, 澁谷英介, 本田彰子. (6) 568-576.

国際看護学への挑戦をテキストマイニングする. 西川まり子, 村田直己, 小櫻愛美. (6) 577-586.

第7号◆Person-centred Care の理論の 現状と看護研究としての展望 (企画: 鈴木みずえ)

Person-centred Care の理念と動向. 鈴木みずえ. (7) 644-659.

Person-centred Care をめざした認知症ケアマッピング(DCM)の理論と海外の動向. 水野裕. (7) 660-673.

Person-centred Care をめざした認知症ケアマッピングにおける研究の動向. 田島明子, 鈴木みずえ. (7) 674-686.

ケアスタッフの Person-centred Care の意識や実践を測定するための尺度の開発に関する研究の動向. 内田達二, 鈴木みずえ. (7) 687-699.

地域における認知症ケアマッピング(DCM)を用いた施設間相互評価の有効性. 桑野康一, 鈴木みずえ, 下山久之, 遠藤英俊. (7) 700-712.

急性期病院における Person-centred Care をめざした高齢者集団ケアの取り組み — 認知症ケアマッピング(DCM)の導入と展開. 吉村浩美, 鈴木みずえ, 高木智美, 江上直美. (7) 713-722.

〔原著論文〕

質的研究方法による学位論文作成に際して看護系大学院生と指導教員が遭遇する困難 — 医学系研究科博士課程に

おける聞きとりより、大熊恵子、関本朋子、グレッグ美鈴、大川貴子、竹崎久美子、麻原きよみ、山本則子、太田喜久子、木下康仁、萱間真美。(4) 418-428.

〔総説〕

人工呼吸器関連肺炎のリスクと予防 ― 看護研究への示唆。矢野武志。(4) 442-453.

〔研究ノート〕

“発見と学びをもたらす質的研究の醍醐味”を伝えるために ―『質的統合法入門-考え方と手順』を読んで。萱間真美。(1) 86-88.

〔研究報告〕

児童・思春期精神科病棟における熟練看護師の看護ケア ― 子どもが抱える問題の解決に向けた看護介入。船越明子、田中敦子、服部希恵、アリマ美乃里、田中洋美。(5) 504-517.

インド中部州における Auxiliary Nurse Midwife (ANM) の業務遂行上の体験に関する研究。樋口まち子。(6) 608-617.

〔特別記事〕

米国の看護研究の先端を行く 2012 State of the Science Congress on Nursing Research に参加して。松田結。(2) 210-214.

『APA に学ぶ 看護系論文執筆のルール』から考える、研究論文を書くためのヒント ― 第 32 回日本看護科学学会学術集会／(株)医学書院共催ランチョンセミナーより。江藤裕之、前田樹海。(4) 434-441.

看護師がメタファーを語る意味-認知言語学の視点からテキストマイニングを用いて考える。服部兼敏、東山弥生。(6) 588-605.

〔Seminar Report for NR〕

「ライフストーリー・インタビューの意義と方法」に関するセミナーを開催して ― “私たち人間は物語の種 (storytelling species) である”。黒江ゆり子。(2) 204-205.

〔連載〕

看護における質的研究の前提と正当性

① 質的研究の前提と主題は何か。家高洋。(1) 90-103.

② 言語について。家高洋。(2) 216-225.

③ ガダマーについて ― 看護研究におけるその意義。家高洋。(3) 336-346.

④ 実践の知について ― 看護研究における基本的な枠組み。家高洋。(5) 520-529.

⑤ 看護研究におけるケースの知の意義(前編)。家高洋。(6) 620-628.

⑥ 看護研究におけるケースの知の意義(後編)。家高洋。(7) 728-739.

Words, words, words.

研究と言語 ― 質的研究のために

⑦ 研究と言語 ― 質的研究のために Language in Research : For Qualitative Researchers. 江藤裕之。(1) 104-109.

⑧ 言語の特徴 Nature of Language. 江藤裕之。(2) 228-233.

⑨ 区別と名づけ Distinction and Naming. 江藤裕之。(3) 348-353.

⑩ ことばと理解 Understanding With Words. 江藤裕之。(5) 530-535.

⑪ 言語学のなりたち A Short History of Linguistic Thought. 江藤裕之。(6) 630-637.

⑫ 認識されたものを認識する ― フィロロジーについて *Erkennen des Erkannten* : On Philology. 江藤裕之。(7) 742-747.

〔書評〕

『日本近現代 医学人名事典 1868-2011』未来に残る医療界の大きな遺産。川原由佳里。(2) 209.

『はじめて学ぶ 社会調査-リサーチマインドを磨く 8 つのレクチャー』社会調査の基礎を学べる初学者必携の書。石井京子。(2) 234.

『臨床研究の道標(みちしるべ) 7 つのステップで学ぶ研究デザイン』平易だが深い。看護研究を始める前に必読の書。成田有吾。(3) 333.

『APA に学ぶ 看護系論文執筆のルール』看護精神あふれる論文執筆指南の書。佐藤勢紀子。(3) 347.

『質的研究法ゼミナール第 2 版 グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ』開かれた知をめざす質的研究の教育への試み。能智正博。(7) 727.